

日南市飢肥(宮崎県)

(1)保存地区の概要

地 区 名 日南市飢肥

種 別 武家町

面 積 19.8ha

選 定 年 月 日 昭和52年5月18日

特 徴 日南市飢肥伝統的建造物群保存地区は飢肥藩5万1千石の城下町として、江戸時代初期の城下町地割りを良く留めている。
街路幅が当時のまま維持されているために、街路に面した石垣、生垣、門などが保存されている。
酒谷川に三方を囲まれた城下は、正方形に近い地割りとなっており、飢肥城に近い方から上級家臣、中級家臣、町家、下級家臣と屋敷が配置されていた。
武家屋敷は、格式に応じ門を構え、飢肥石や玉石の石垣の上にお茶等の生垣で囲まれているところが特徴である。

伝 統 的 建 造 物 建築物 14件 工作物128件

環 境 物 件 23件



日南市飢肥(宮崎県)

(2) 保存地区のあゆみ

昭和49年度(1974)	飢肥城復元事業開始(～1979)
昭和50年度(1975)	伝統的建造物保存地区保存対策調査
昭和51年度(1976)	保存地区決定・保存条例議決
昭和52年度(1977)	『重要伝統的建造物群保存地区』選定 修理・修景事業スタート
昭和54年度(1979)	「飢肥城町並み保全修景計画」調査
昭和58年度(1983)	大手門通り・横馬場通り電柱移設工事 開始
平成元年(1989)	道路標識改善事業
平成6年度(1994)	「まちなみデザイン推進事業」調査
平成12年度(2000)	第23回全国町並みゼミ日南大会
平成23年度(2011)	「日南市歴史文化基本構想」策定
平成25年度(2013)	「日南市歴史的風致維持向上計画」策定
平成26年度(2014)	「城下町飢肥景観計画」策定
平成27年度(2015)	電線地中下事業竣工 (大手横馬場通線150m、後町線270m)
平成29年度(2017)	「重要伝統的建造物群保存地区選定 40周年記念シンポジウム」開催
令和元年度(2019)	九州歴史街づくりサミットin日南 開催

(3) 保存地区の保存と整備

【経過】

飢肥地区の歴史的町並みを保存するため、伝建地区に選定された昭和52年度から令和7年度まで164件の修理・修景工事を実施し、飢肥地区の歴史的町並みの保存を行ってきた。

【過去3年間の実績】

令和5年度	修理なし	修景1件	計1件
令和6年度	修理なし	修景1件	計1件
令和7年度	修理3件	修景1件	計4件

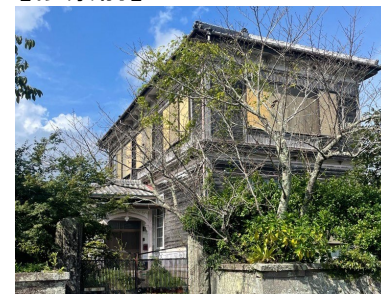
【修景前】



【修景後】



【修景前】



【修景後】



日南市飢肥(宮崎県)

(4) 保存地区の活用とまちづくり

その1 空き家の利活用

【経緯】

飢肥地区でも高齢化や世代交代により空き家が増加していた。

空き家の増加は防災上の問題、景観の阻害により観光客の減少につながる恐れがあるため、本市では平成27年度～平成30年度まで、民間からの公募により「まちなみ再生コーディネーター」を登用し、空き家活用等の活動を行った。

登用終了後も、空き家の民間活用に向けた取り組みを行い、令和元年度に1件の空き家が宿泊施設として活用が行われた。

令和2年度には、市が所有する飢肥地区の歴史的建造物7施設の利活用事業者を公募し、5施設の活用が決定したが、うち4施設についてはコロナ禍の影響で資金目処が立たず決定が取り消しとなった。

【実績】

利活用事業者が決定した旧伊東伝左衛門家は、令和3年度に宿泊施設として改修され県外事業者が1年間営業した後、令和5年度に地元事業者が経営権が移譲されるなどの動きはあったものの、飢肥地区の活性化に大きく寄与している。

令和6年度には、伊東伝左衛門家を経営する地元事業者が空き家となっていた旧梅村邸を修景補助で改修し、令和8年度に1階を店舗として、その後2階を宿泊施設として開業予定となっており、新たな人流が生まれることが期待されている。

今後は、地方への観光客の増加が見込まれるため、新たな歴史的建造物の利活用方法についても検討していきたい。

【空き家利活用の推移】

(件)

令和5年度	令和6年度	令和7年度
1	1	0

【店舗兼宿泊施設として改修された空き家】

旧梅村家(令和6年度)



その2 周囲への波及効果(各種計画の策定)

①【歴史的風致維持向上計画の策定】

平成25年に歴史的風致維持向上計画を策定し、保存地区を含む周辺地域を重点区域に指定した。

その重点区域内では、平成28年度に電線地中化事業が完了し、飢肥地区の景観がより向上している。



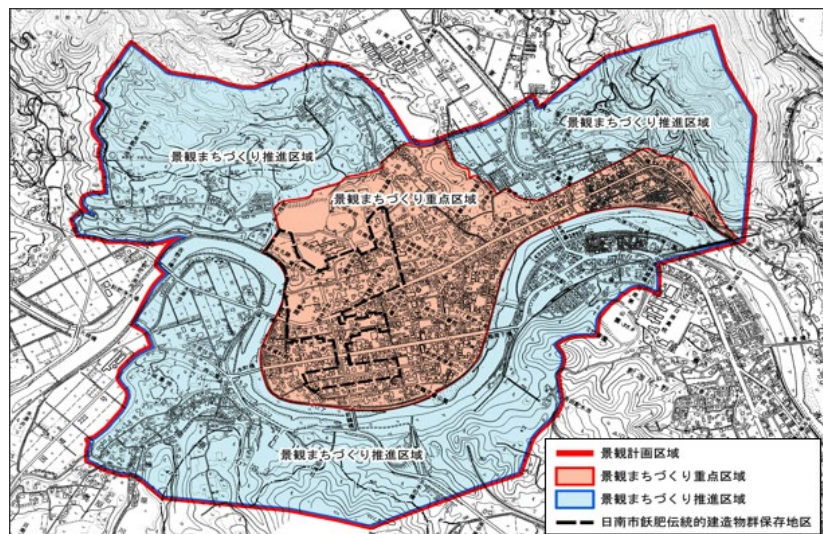
電線地中化(市道大手横馬場通線)

日南市飢肥(宮崎県)

②【城下町飢肥景観計画】

平成26年度に保存地区を含む城下町一帯の景観保全を図るために策定した。

これにより、これまで保存地区しか景観の保全ができなかったが、保存地区外でも景観の保全が可能となり、飢肥地区一帯の歴史的景観がより一層向上している。



城下町飢肥景観計画区域図

(5)住民等の取組

【飢肥城下町食べあるき・まちあるき】

(一財)飢肥城下町保存会が中心となり、飢肥城下町周辺の店舗と連携をし、地元特産の食べ物や手作り商品と引き替えしながら、飢肥の施設や町並みを楽しんでもらう食べあるき・まちあるき事業に取り組んでいる。



食べあるきまちあるきMAP

(6)DENKEN WEEKの開催

九州で初めて「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されて40年を記念し、飢肥城下町が持っている歴史と文化財の持つ価値をさらに高め、新たな価値観の創造を図るイベントを平成29年度に第1回目を実施し、令和7年度までに計8回実施した。

期間中は有料施設を無料開放し、飢肥の持つ魅力を広く発信するとともに、誰もが新進気鋭のアーティスト作品などを身近に鑑賞することができる。



文化財を活用した現代アートや体験型アートの展示